

第2次澁川市環境基本計画 環境施策報告書

— 令和5年度施策・事業の点検結果 —

澁 川 市

はじめに

本市では、平成21年3月に「渋川市環境基本計画」を策定し、10年間の計画期間において、環境保全に向け様々な施策を推進してきました。

平成30年度で満了となった同計画の理念を引き継ぎながら、社会情勢の変化や環境行政を考慮し、平成31年3月に市民・事業者・市が協力して取り組むべき、「第2次渋川市環境基本計画」を策定しました。

環境施策・事業の進行管理及び点検・評価を毎年実施することで、環境像の実現に向けて、各種施策の継続的な改善を図ります。

この報告書は、令和5年度に講じた施策の取組状況等を、各課が各基本目標ごとに設定した指標に基づいて、自主点検・評価を行った結果及び各個別施策の具体的な成果や進捗状況を取りまとめたものです。

令和6年10月

渋川市市民環境部環境森林課

目 次

I	第2次渋川市環境基本計画の概要	1
II	指標の進行管理結果について（令和5年度）	4
1	生活環境	1 1
2	自然環境	1 5
3	快適環境	1 9
4	循環型社会	2 2
5	地球環境	2 5
6	学習・参加	3 0
III	総括	3 2

環境像

豊かな自然と多様な風土を

みんなで守り育て未来へ継承するまち・しづかわ

基本理念

健康で安全かつ文化的な生活環境と地域環境を
《守る》 《つなげる》 《つくり出す》

基本方針

1 【生活環境】
安全で安心して生活し続けられるまち

2 【自然環境】
緑と水がおりなり多様な自然・生物と共生するまち

3 【快適環境】
地域の歴史や文化を再発見し、身近な自然環境を生かした景観をつくるまち

4 【循環型社会】
廃棄物を減らし、資源を循環利用するまち

5 【地球環境】
持続可能な低炭素化を進めるまち

6 【学習・参加】
地域協働による環境づくりをするまち

基本目標

1-1 良好な生活環境を守る

2-1 雄大な自然環境を守る

2-2 生物多様性を守る

3-1 歴史と文化をつなぐ

3-2 良好な景観を守る

4-1 資源を有効に活用する

5-1 地球温暖化防止活動を推進する

5-2 エネルギーを有効に活用する

6-1 環境学習、環境情報の共有を推進する

6-2 参加、協働を推進する

個別目標

1-1-1 大気汚染のない空気のきれいなまち

1-1-2 水質汚濁のない気持ちよく訪れることができる水辺

1-1-3 土壌・地下水汚染のない安全なまち

1-1-4 騒音や振動が防止された安心できる近隣環境

1-1-5 悪臭のない快適なまち

1-1-6 放射性物質の影響が少ない安心なまち

2-1-1 水資源が健全に循環し、自然が保全されるまち

2-1-2 里山環境が保全され、多様な生態系とともにあるまち

2-2-1 重要種の保護、有害種や特定外来生物への対応が進み、野生生物と共存するまち

3-1-1 歴史的環境の保全と活用が進んだ魅力あるまち

3-1-2 文化的活動の進んだ魅力あるまち

3-2-1 緑に親しめる環境の形成が進み、うるおい豊かなまち

3-2-2 ふらっと歩きたくなるまちづくり

4-1-1 3Rが進み、ごみが少ないまち

4-1-2 ごみが適正に処理される爽やかなまち

4-1-3 不法投棄防止や環境美化が進み、安心できるまち

5-1-1 気候変動対策を推進し快適に暮らせるまち

5-1-2 気候変動に適応した安全に暮らせるまち

5-1-3 地球温暖化対策を進める市役所

5-2-1 エネルギー効率のよいライフスタイル

5-2-2 自然エネルギーを利用するクリーンなまち

5-2-3 都市インフラと公共交通の省エネルギーが進んだまち

6-1-1 環境学習が進み、環境についての理解と実践が広がるまち

6-1-2 地域環境資源を未来につなぐまち

6-2-1 市民参加と協働が進み、市民・事業者・市がともに環境を創るまち

I 第2次渋川市環境基本計画の概要

1 基本的事項

(1) 計画の目的と位置付け

第2次環境基本計画は、「渋川市環境基本条例」(以下「条例」)の第3条に定める基本理念に基づき、環境保全に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図ることを目的に策定しました。

この計画は、第2次渋川市総合計画を上位計画として、まちづくりの考え方、方向性を共有し、環境面からまちづくりを推進するものです。

また、環境分野のマスタープランとして個別に方向性を示すとともに、各種関連計画と連携して良好で快適な環境の保全及び創造に関する取組を推進します。

「渋川市環境基本条例」第3条 基本理念

- 1 良好で快適な環境の保全及び創造は、市民が健康で安全かつ文化的な生活を営む上で必要とする環境を確保するとともに、その環境が将来の世代へ継承されるよう適切に行わなければならない。
- 2 良好で快適な環境の保全及び創造は、すべての者が自主的かつ積極的に活動することにより良好で快適な環境を維持し、環境への負荷の少ない循環を基調とした持続的に発展可能な社会の構築を目指して行わなければならない。
- 3 地球環境保全は、市、市民及び事業者のすべてが地域の環境と地球全体の環境とが深くかかわっていることを認識し、日常生活、事業活動その他の人の活動において、相互に協力し、及び連携して推進されなければならない。

(2) 計画の対象分野

本計画では、条例第8条(基本方針)を基本としながら、国の環境基本法や関連法令など、近年の環境問題の動向を踏まえて、本計画が対象とする環境の範囲を次のとおり整理しました(表1)。

表1 計画の対象分野と内容

分野	内 容
生活環境	生活の安全に関わる、典型7公害 ^{*1} などの環境汚染や阻害要因への対応
自然環境	自然生態系と生物多様性を支える重要な自然環境の保全、自然共生に向けた有害生物対応
快適環境	地域の歴史や文化、身近な自然環境
循環型社会	循環型社会に身近に関わる一般廃棄物処理 ^{3 R[*]2}
地球環境	地球温暖化・気候変動への対応、低炭素社会に必要な省エネルギー、自然エネルギー、社会資本の効率化
学習・参加	各分野に横断的に関わる、環境学習、環境情報、参加・協働、地域環境資源 ^{*3}

^{*1} 典型7公害 環境基本法(旧来は公害対策基本法)に定められた7種(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭)の公害のこと

- ＊２ ３Ｒ（スリーアール） リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle）の３つのＲ（アール）の総称。リデュースは、ごみを減らすこと、リユースは、使えるものは、繰り返し使うこと、リサイクルは、ごみを資源として再び利用すること。
- ＊３ 地球環境資源 自然資源のほか、特定の地域に存在する特徴的なものを資源として活用可能な物と捉え、人的・人文的な資源をも含む広義の総称のこと。

（３） 計画の期間

本計画の期間は、令和元（２０１９）年度から令和１０（２０２８）年度までの１０年間です。

計画の適用後、市政の動向、社会情勢、政府の動向や制度整備などを踏まえ、中間年次の令和５（２０２３）年度に見直しを行いました。

２ 計画の目標

（１） 環境像及び基本理念

本市の環境の保全及び創造において、将来を展望した総合的、長期的な望ましい環境像及び本計画の基本理念を次の通り定めました。

<環境像>

豊かな自然と多様な風土をみんなで守り育て未来へ継承するまち・しぶかわ

<基本理念>

健康で安全かつ文化的な生活環境と地域環境を《守る》《つなげる》《つくり出す》

（２） 基本方針

環境像を実現するため、条例第８条（基本方針）に掲げる五つの分野に、「学習・参加」を加えた六つの分野から「基本方針」を設定しました（表２）。

それぞれの基本方針では、具体的な施策目標となる「基本目標」を定め、さらにはそれを達成するために、展開すべき主要な「個別目標」を整理、体系化しました。

表２ 基本方針

生活環境	安全で安心して生活し続けられるまち
自然環境	緑と水がおりなす多様な自然・生物と共生するまち
快適環境	地域の歴史や文化を再発見し、身近な自然環境を生かした景観をつくるまち
循環型社会	廃棄物を減らし、資源を循環利用するまち
地球環境	持続可能な低炭素化を進めるまち
学習・参加	地域協働による環境づくりをするまち

(3) 重点施策

本計画の実効性をより一層高めるため、市民・事業者・市の各主体が互いに連携・協働していくことが必要であることから、連携・協働の面から有効性の高い取組を重点施策として位置づけ（表3）、優先的に事業化を図ります。

表3 重点施策

重点施策	取組内容
地球温暖化対策の推進	・国民運動「クールチョイス（COOL CHOICE）」の推進 ・クールシェアの推進 ・森林環境の保全 ・市有施設のエネルギー対策の推進 ・住宅のスマートエネルギー化の推進
家庭系ごみの減量化	・ごみ出し方法の周知強化 ・家庭などにおける食品ロスの削減 ・プラスチックごみ対策の推進 ・資源ごみ回収品目の細分化 ・紙のリサイクルの強化
環境市民や環境企業の育成	・市民環境大学の継続 ・エコリーダーの育成と活動の場 ・様々な環境保全活動のPR

3 計画の進め方

(1) 推進体制

ア 庁内会議

「渋川市環境推進会議」を中心に、庁内の各所属における施策の進行管理をそれぞれで点検・評価し、庁議で協議・調整を行い、「環境施策報告書」として取りまとめます。

イ 環境審議会

環境基本法の規定に基づき設置した市長の諮問機関であり、良好で快適な環境の保全及び基本的事項について、調査審議等を行います。

(2) 進行管理

本計画を着実かつ有効に推進していくために取組の評価を行い、適切な見直しを継続的に行います。そのためPDCAサイクル（PLAN：計画、DO：実施・推進、CHECK：点検・評価・報告、ACTION：修正・改善）を導入し、継続的な改善を図ります。

Ⅱ 指標の進行管理結果について（令和５年度）

1 指標の進捗状況

（１） 指標の進捗状況

指標が設定されている37項目について、目標達成の進捗度を確認した結果は下記のとおりでした。

「A 予定通り進んでいる」が14項目（37.8%）、「B 概ね進んでいる」が11項目（29.7%）でした。

一方、全体の32.4%にあたる12項目が、「C 遅れている」という結果でした。進捗度が「C 遅れている」であった項目については、目標達成のための今後の対応を（２）で示しています。

指標の進捗状況一覧表

基本方針		A	B	C	合 計
		予定通り進んでいる	概ね進んでいる	遅れている	
1 生活環境	指標数	4	3	0	7
	構成比	57.2%	42.8%	0%	100.0%
2 自然環境	指標数	2	1	3	6
	構成比	33.3%	16.7%	50.0%	100.0%
3 快適環境	指標数	2	2	2	6
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%	100.0%
4 循環型社会	指標数	2	1	3	6
	構成比	33.3%	16.7%	50.0%	100.0%
5 地球環境	指標数	3	2	3	8
	構成比	37.5%	25.0%	37.5%	100.0%
6 環境保全活動	指標数	1	2	1	4
	構成比	25.0%	50.0%	25.0%	100.0%
合 計		14	11	12	37
		37.8%	29.7%	32.4%	100.0%

(2) 目標達成の進捗度「C 遅れている」の指標にかかる今後の対応

目標達成の進捗度が「C 遅れている」である指標 12 項目にかかる今後の対応策は、次のとおりです。

今後の対応一覧

基本方針			
指標名（取組状況記載ページ）	目標値	R5実績値	進捗率
今後の対応			
2 自然環境			
竹林整備面積（p. 16）	0.5ha	0.12ha	24.0%
自治会等地域住民からの要望に基づき整備を実施しているが、要望箇所が中山間地域等の放置竹林で急傾斜あることから整備費用が多くかかる。そのため、複数箇所の整備が困難であり進捗に遅れが出ている。今後も自治会等の要望に基づき竹林整備を推進していくとともに、進捗率向上に向けての方法を検討する。			
遊休農地面積（p. 17）	93.0ha	215.3ha	-173.6% (減少指標)
社会情勢の変化等により農業を取り巻く状況は、厳しい状況であるが、引き続き農業委員・農地利用最適化推進委員と連携しながら農地パトロール（利用状況調査）、利用意向調査を実施する。利用意向調査の実施にあたっては、令和3年度までは新規に遊休農地となった土地所有者に対して実施してきたが、令和4年度から、遊休農地の所有者全てに対して実施している。今年度も引き続き全ての遊休農地所有者に対して、中間管理機構への貸し付けや各種補助制度の活用、適正管理の指導等を通して、遊休農地の解消と発生防止を推進していく。			
ヒメギフチョウの産卵数（p. 18）	2,500個	93個	3.7%
群馬県指定天然記念物ヒメギフチョウ保護管理計画に沿いながらヒメギフチョウ保護連絡協議会で保護方法などを検討し実施してきたが、令和5年度に産卵数が激減したことから、全卵を保護し専門家の指導を受けながら市とぐんま昆虫の森で飼育を行った。また、産卵場所のウスバサイシンの植生回復に有効な獣害防止柵を設置し効果を確認できたので、引き続き設置・管理等を実施する。 今後も、協議会で検討を継続し、産卵数が目標値を達成できるよう取組みを進めるとともに、生息区域の環境整備などヒメギフチョウに直接的に手を加えない保護の原則を踏まえつつ、危機的状況にある現況に対応した保護方法を盛り込んだ保護管理計画に見直しを行う。 また、群馬県に対してヒメギフチョウ保護のための体制強化や支援について、市政推進連絡会議で群馬県議会議員に対してヒメギフチョウの保全についての要望を行っており、今後も継続して働きかけを行う。			

3 快適環境

市民総合文化祭参加者数割合 (p. 20)	12. 0%	7. 4%	61. 7%
若年層をはじめ、これまで文化祭に参加してこなかった市民等に興味関心を喚起するため、広報、協会誌や市公式LINE、X等のSNSの活用等により、文化祭の開催周知と併せて、文化祭の開催を担う文化協会の活動の魅力発信を支援する。また、文化協会が誰もが参加しやすい環境づくりに取り組めるよう支援する。			
公民館学習参加者数 (p. 20)	57, 300人	36, 525人	63. 7%
より多勢の参加者を集えるよう、地域特性や各世代のニーズ等を踏まえ、開催する講座等の内容や日時等に工夫を加える。 事業実施の周知を効果的にいき、多世代が参加できる環境づくりに努める。			

4 循環型社会

家庭系ごみの1人1日あたりの排出量 (p. 22)	600g	635g	10. 3% (減少指標)
家庭から排出される燃えるごみの排出量の減少に取り組むため、令和6年4月から始まったプラスチックの分別収集について、広報、ホームページや出前講座を活用しながら周知を継続して行っていく。			
資源ごみ回収量 (p. 23)	2, 700t	1, 750t	64. 8%
令和5年度の目標値を設定した当初に比べて、電子媒体の急速な普及により、新聞紙や雑誌類など発行部数が減少しつつある。また、飲料製品の容器においては、ビンや缶類からペットボトルへシフトしてきており、資源ごみ回収量の増加は、困難な状況にあるが、今後も継続して広報等で周知を行い、回収量低下の抑制につなげたい。			
小型家電回収量 (p. 23)	35, 000kg	3, 390kg	9. 7%
令和5年度の目標値を設定した当初に比べて、資源価格の下落など様々な要因により、拠点回収による回収量の大幅な増加は困難である。認定事業者による宅配便回収の周知を図ることで、引き続き小型家電のリサイクルを図る。			

5 地球環境

電気自動車用急速充電器利用回数 (p. 25)	3, 100回	1, 906回	61. 5%
市では、道の駅こもち及び道の駅おのこに電気自動車急速充電器を設置している。コロナ禍が明けたが、地方までの外出機会が回復しないこと、機器の使い勝手の悪さ（支払方法、低い電圧など）や上信自動車道の開通などの影響により利用回数が減少し続けている。利用回数の推移を注視しながら、利用者の使いやすい機器への更新など今後の維持管理の方針を検討する。			

自主防災組織の防災訓練・防災講話等への職員派遣済団体数 (p. 26)	108団体	43団体	39. 8%
新型コロナウイルス感染症が5類になったこともあるため、防災関連行事等の開催を希望する自治会等には、一般的な感染防止策を取りながら防災講話の開催などを検討してもらい、できる限り職員の派遣を行う。 防災講話への職員等の派遣について、積極的に周知・啓発し、地域の防災訓練等を実施する自治会等には、防災講話の開催を検討してもらい、全ての自治会単位で実施されるよう促していく。			
クールシェアスポット数 (p. 26)	30か所	8 か所	26. 6%
コロナ禍で登録を停止していたためクールシェアスポットの認知度が低いまま登録数も伸びなかったと思われる。令和6年度から渋川市が独自に設定したしぶかわ涼みどころ（しぶかわ熱中症アラート発表時に開設する施設）をクールシェアスポットに登録しクールシェアの認知度向上を図るとともに、民間登録施設の増加につなげる。			
6 学習・参加			
エコ・リーダーズセミナー参加者数 (p. 30)	50人	20人	40. 0%
エコ・リーダーズセミナーについてはこれまでの開催により一定の成果があり、今後はエコ・リーダー自らが自立した環境活動に取り組むことが必要である。このことから、これまでのセミナー形式での活動を変更し、エコ・リーダーが自立した活動ができるよう支援を行うこととする。			

令和5年度 指標実績値一覧表

基本方針	基本目標及び指標	現状値 (H29年度)	実績値 (R5年度)	目標値 (R5年度)
生活環境	1. 良好な生活環境を守る			
	○雨水pH測定 5.8pH 5.4pH 6.0pH ○環境基準達成率 ・市街地河川（C類型BOD値） 89% 95.8% 90% ○ホタル生息地 13か所 14か所 15か所 ○污水处理率 72.4% 78.2% 73.0% ○土砂条例に係るパトロール回数 12回 24回 24回 ○環境基準達成率 ・特定事業場騒音 67% 52.9% 70% ・自動車騒音（市内全域） 94% 97.4% 95%			
自然環境	1. 雄大な自然環境を守る			
	○森林整備実施面積 8.1ha 29.7ha 20.0ha ○間伐面積 95ha 100ha 95ha ○竹林整備面積 0.52ha 0.12ha 0.5ha ○農地保全に係る活動団体数 6団体 13団体 14団体 ○遊休農地面積 137.7ha 215.3ha 93ha (H30年1月)			
快適環境	2. 生物多様性を守る			
	○ヒメギフチョウ産卵数 1,371個 93個 2,500個			
快適環境	1. 歴史と文化をつなぐ			
	○指定文化財数 ・国指定 13件 13件 13件 ・県指定 40件 43件 41件 ・市指定 127件 126件 133件 ○市民総合文化祭参加者数割合 10.6% 7.4% 12.0% ○公民館学習参加者数 57,256人 36,525人 57,300人			
循環型社会	2. 良好な景観を守る			
	○緑化苗木配布数 24,000本 27,095本 36,000本			
循環型社会	1. 資源を有効に活用する			
	○家庭系ごみの1人1日当たりの排出量 639g 635g 600g ○ペットボトルの収集量 169t 152t 170t ○資源ごみ回収量 2,643t 1,750t 2,700t ○小型家電回収量 26,810kg 3,390kg 35,000kg ○特定空家等解決件数率 36% 67.6% 40% ○空家活用件数 3件 37件 21件			

地球環境	1. 地球温暖化の防止活動を推進する			
	○電気自動車用急速充電器利用回数 ○防災資機材整備補助団体数 ○自主防災組織への防災訓練、防災講話等への職員派遣済団体数 ○クールシェアスポット数 ○温室効果ガス排出量削減数値（市役所）	2,495回 8 団体 68 団体 14か所 17,237,034 kg-CO ₂ (2016年度)	1,906回 18団体 43団体 8か所 9,507,570 kg-CO₂	3,100回 16団体 108団体 30か所 16,549,427 kg-CO ₂ (2022年度)
環境保全活動	2. エネルギーを有効に活用する			
	○住宅用スマートエネルギー機器設置件数 ○乗合バス利用者数 ○J R乗車人数（浜川駅、八木原駅）	17件 207,569人 1,649,435人	403件 163,278人 1,384,578人	200件 213,000人 1,698,900人
環境保全活動	1. 環境学習、環境情報の共有を推進する			
	○環境学習参加者数 ○エコ・リーダーズセミナー参加者数 ○環境まつり来場者数	17人 41人 4,500人	28人 20人 3,500人	20人 50人 4,600人
環境保全活動	2. 参加、協働を推進する			
	○環境NPO法人登録団体数	14団体	13団体	17団体

令和5年度指標及び関連事業の取組状況

< 表の見方 >

指 標 名 A			現状値 H29年度	実績値 R5年度 B	目標値 R5年度
進 捗 状 況 の 分 析	担当課	指標に関わる事業	取組状況 C		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析 E		

A：基本方針ごとに設定されている指標の名称

B：現状値（H29年度）及び目標値は、第2次渋川市環境基本計画から転記しています。実績値（R5年度）は、「指標に関わる事業」実施による令和5年度の成果を表示しています。

C：「基本方針」を達成するため、「基本目標」及び「個別目標」に基づいて取り組んだ、令和5年度の取組内容が記載されています。

D：進捗率は、目標値に対する実績値（R5年度）の割合で表されています。また、目標達成の進捗度は、A＝予定通り進んでいる（進捗率95%以上）、B＝概ね進んでいる（70%以上95%未満）、C＝遅れている（進捗率70%未満）の3段階で評価しています。

E：目標値と比較して、令和5年度の取組状況や実績値を分析しています。

＊「担当課名」については令和6年度時点のものです。

1 生活環境 ～安全で安心して生活し続けられるまち～

大気や水質の保全、騒音・振動の防止といった基本的な公害対策とともに、放射性物質の監視などに取り組むことで、安全で安心して生活し続けられるまちづくりを進めます。

指標（１）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
雨水 pH測定			5.8pH	5.4pH	6.0pH
進 捗 状 況 の 分 析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	環境調査事業 (酸性雨)	自動雨水採水装置により、一降雨ごとに降水量と水素イオン濃度の測定を行った。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	90.0%	B	継続して測定を行い、酸性雨の状況把握に努めていく。		

【実績値積算根拠】 Σ （1降雨ごとの水素イオン濃度×降水量）／全降水量 をpHに変換

指標（２）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
環境基準達成率 <市街地河川（C類型BOD値）>			89%	95.8%	90%
進 捗 状 況 の 分 析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	環境調査事業 (公共用水域水質)	利根川と吾妻川及びこれらの河川に流入する29河川1用水の30か所において、県の水質測定計画に従い、各河川4回の水質調査を実施した。 ※測定中小河川：赤城沼尾川、子持唐沢川、栗の木川、諏訪沢川、滝川、黒沢川、天竜川、田島沢川、寺沢川、渋川沼尾川、大輪川、芦の沢、大門川、鯉沢川、逆川、天神沢川、平沢川、金沢川、茂沢川、渋川唐沢川、漆原用水、東川、山田川、後沢川、前金沢川、午王川上流、木曾川、滝の沢川、午王川、橘川		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	106.4%	A	市街地河川においては、各河川のBOD年平均値が5mg/lを下回っており、低い値で安定している。		

【実績値積算根拠】環境基準(C類型BOD値)達成115河川/測定実施120河川×100(延べ数)

指標（３）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
ホタル生息地			13か所	14か所	15か所
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	環境学習等推進事業 （ホタルの生息調査）	今回生息地調査を実施した場所以外にも、生息地は存在すると思われる。引き続き情報提供を募り、生息地の把握及び周知に努める。 ※生息確認箇所：川島（久保田川）川島用水第二貯水池北、金井本町①萩原建設西、金井本町②蛸橋付近、リンゴ団地（汚水処理場）、金井南町（渋川北中南西）、石原西（前堤東）、行幸田清水（あじさい聖苑南）、行幸田谷地①オンダ印刷北西、行幸田谷地②オンダ印刷南西、半田（半田せせらぎパーク）、宮田（ユートピア赤城南）、溝呂木（蟹沢）溝呂木排水処理施設北、三原田（上三原田バス停北）、祖母島駅北東		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	93.3%	B	新たな生息情報もあり、ホタルの生息環境は安定している。		

【実績値算定根拠】 市内ホタル生息地箇所の数

指標（４）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
汚水処理率			72.4%	78.2%	73.0%
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	業務課	管渠整備事業	◎公共下水道の事業計画区域を拡大し、下水道未普及地区の整備に取り組む。 ◎合併浄化槽の設置は、設置費用の一部を補助する「個人設置型」を実施。令和5年度の補助基数は14基（新規11基、転換3基） ◎水洗化の促進として、戸別訪問を実施し、接続率の向上に取り組んでいる。（令和5年度の訪問実績は795件）		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	107.2%	A	事業計画において非可住地の一部を削除し、住宅化が著しく人口増加が見込まれる地区を加え整備を重点的に進めることで、進捗率が100%を超える結果となったと思われる。 人口減少は指標となっている汚水処理率に大きく関わるため、状況を踏まえ、目標値の見直しについて検討の必要があると考える。		

【実績値算出根拠】（接続人口56,788人/住基人口72,600人）

指標（５）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
土砂条例に係るパトロール回数			12回	24回	24回
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	土砂埋立ての規制	違法な土砂等の埋立て等を未然に防止するため、年24回パトロールを実施した。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	100.0%	A	目標値のとおり実行できたと考える。今後も事業を継続していく予定であり、引き続きパトロールを行う。		

【実績値算定根拠】土砂条例に係る年間のパトロール回数

指標（６）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
環境基準達成率 ＜特定事業場騒音＞			67%	52.9%	70%
進 捗 状 況 の 分 析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	環境調査事業 (騒音・振動)	特定事業場における騒音・振動測定を17事業場で実施し、うち8事業所で騒音の基準値を超過していた。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	75.6%	B	騒音については、8事業場15地点で基準値を超過していた。振動についてはすべての地点で基準を満たしていた。基準値を超過していた事業場に対し対策の依頼を行った。		

【実績値積算根拠】 環境基準達成9事業場/測定実施17事業場×100

指標（７）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
環境基準達成率 ＜自動車騒音（市内全域）＞			94%	97.4%	95%
進 捗 状 況 の 分 析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	環境調査事業 (自動車騒音：市内全域)	環境騒音測定 10地点、自動車騒音測定（国道17号等沿線）5地点、自動車騒音測定（高速自動車国道）5地点、自動車騒音常時監視5,515地点、新幹線鉄道騒音測定3地点について測定を行った。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	102.5%	A	継続して測定を実施し、環境基準を超過している場合は関係機関に要請を行い、改善を図っていく。		

【実績値積算根拠】 環境基準適合戸数（5,372戸）/対象住居戸数（5,515戸）

2 自然環境

～緑と水がおりなす多様な自然・生物と共生するまち～

森林や里山などの自然環境、水資源、生物多様性の保全とともに、人と野生動物との共存に取り組むことで、緑と水がおりなす多様な自然・生物と共生するまちづくりを進めます。

指標（８）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
森林整備実施面積			8.1ha	29.7ha	20.0ha
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	間伐促進対策事業	令和５年度は切捨間伐（整理あり、選木あり）を4.81ha実施した。森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法が令和３年の通常国会で期間延長され、令和12年度までとなった。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	148.6%	A	事業計画に従い令和６年度は4.06haを予定しており、今後も計画的に間伐を継続していく。		

【実績値積算根拠】森林整備実施の面積

指標（９）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
間伐面積			95ha	100ha	95ha
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	間伐事業	造林事業、県民税事業、治山事業などで100haの間伐が実施された。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	105.3%	A	令和６年度においても、同様の事業による間伐が実施されることが見込まれる。		

【実績値積算根拠】間伐面積（県集計によるもの）

指標（１０）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
竹林整備面積			0.52ha	0.12ha	0.5ha
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	竹林整備事業	令和５年度は赤城地区0.12haの竹林整備を実施した。また、令和４年度に実施した子持地区は河川付近のため豪雨等により伐採した竹材が流出し災害を引き起こす恐れもあり、伐採竹材の片付けを実施。（1.71ha分） 事業費3,338,592円 補助金1,669,000円		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	24.0%	C	引き続き県のぐんま緑の県民基金市町村提案型事業を活用し、自治会等の要望に基づき整備を実施していく。		

【実績値積算根拠】 竹林整備面積

指標（１１）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
農地保全に係る活動団体数			6団体	13団体	14団体
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	農政課	多面的機能支払 交付金事業	積極的な広報活動や新規立ち上げを検討する組織への説明会等を実施した結果、令和５年度は前年から２組織の増加となった。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	92.9%	B	目標値には僅かに届かない結果となったが、平成29年度から活動団体数が倍増している。令和６年度の新規立ち上げや対象農地等の拡大及び資源向上（長寿命化）活動を検討している団体との連携も図れており、概ね順調に事業を推進できている。		

【実績値積算根拠】 農地保全に係る活動団体の数

指標（１２）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
遊休農地面積			137.7ha (H30.1)	215.3ha	93ha
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	農業委員会事務局	遊休農地の解消	農業委員・農地利用最適化推進委員と連携し、市内全域の農地に対し農地パトロール（利用状況調査）を実施し、遊休農地の確認を行った。今年度から遊休農地として確認された全ての土地の所有者に対し、今後の土地の利用について意向調査（令和３年度までは新規の遊休農地の土地所有者が対象）を実施し、それに併せて、中間管理機構への貸し付けや各種補助制度の活用等による耕作の再開や担い手への集積を促進し、遊休農地の解消と発生防止を推進した。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	-173.6%	C	中間管理機構への貸し付けや担い手への集積により、遊休農地の解消は見られている。一方、農業従事者の高齢化、後継者不足による農家の減少や農作物の鳥獣被害などのほか、中山間地域等で地理的条件が悪く、農業の生産条件が不利な地域もあり、また、農業機械の大型化による条件不利地の耕作離れ等により遊休農地が増加している。		

【実績値積算根拠】 遊休農地の面積 （減少指標）

指標（１３）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
ヒメギフチョウの産卵数			1,371個	93個	2,500個
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	文化財保護課	ヒメギフチョウ生息域環境整備事業	令和５年度については、確認された産卵数が100卵を切り、絶滅の危機に瀕したため急遽、全卵を保護し幼虫から蛹まで市とぐんま昆虫の森で飼育を行った。また同年中には、令和６年度の取組についてヒメギフチョウ保護連絡協議会で５回にわたり協議し、専門家の指導を受けながら、蛹の羽化から交尾、孵化、蛹化までを市及び一部ぐんま昆虫の森で行った。 食草及び産卵場所であるウスバサイシンがシカの食害により激減していることから、獣害防止柵を３カ所（周囲100m×３カ所）設置し食草の保護に努めた。植生調査も行い、獣害防止柵の効果やウスバサイシンの増殖状況について確認している。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	3.7%	C	産卵数が激減した原因として、シカの食害拡大が考えられる。以前は、シカはウスバサイシンを食べないとされていたが、近年は他の植物と同様に食害を受けるようになり、①産卵場所の減少、②産卵後のウスバサイシンが食害を受ける等が原因となり激減したとも言われている。 また、連続する高温・ゲリラ豪雨などの異常気象により、チョウの羽化と吸蜜植物の開花タイミングがずれた可能性もある。 これまでの生息環境整備だけでは対応できない状況が起きており、新たな方策の検討が必要である。		

【実績値積算根拠】 ヒメギフチョウ産卵数

3 快適環境

～地域の歴史や文化を再発見し、身近な自然環境を生かした景観をつくるまち～

歴史的環境の継承や文化的な活動、暮らしに身近な緑やまちなみの創造に取り組むことで、地域の歴史や文化を再発見し、身近な自然環境を生かした景観をつくるまちづくりを進めます。

指標（14）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
<指定文化財数>	1 国指定		13件	13件	13件
	2 県指定		40件	43件	41件
	3 市指定		127件	126件	133件
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	文化財保護課	文化財管理事業	1 上三原田の歌舞伎舞台は国指定重要有形民俗文化財に、舞台装置・操作は国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されている。令和5年度は「上三原田の歌舞伎舞台2023」を実施し、約400人が来場した。 2 八木沢清水遺跡、長井坂城跡等の管理、除草、下郷の大クワ、溝呂木の大ケヤキ等の保護養生を実施した。「津久田人形芝居櫻座生誕300年祭」や下南室太々神楽養蚕の舞への活動補助を行った。 3 指定文化財の管理については、史跡の除草・清掃や天然記念物樹木の剪定・養生、標識・案内板の修繕等を行った。修繕や無形民俗文化財の補助等を行った。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	1 100.0%	A	1 上三原田の歌舞伎舞台をはじめ、史跡の活用が進むとともに、瀧沢石器時代遺跡保存整備事業も進捗している。		
	2 104.9%	A	2 溝呂木の大ケヤキの保護養生等を実施し、文化財の保護、管理、修繕、普及活用等を図ることができた。新たに3件が県指定となった。		
	3 94.7%	B	3 文化財の保護、管理、修繕、普及活用等を図ることができた。市指定文化財が県指定となったことにより件数が減少した。		

【実績値算出根拠】 目標値指定文化財数件数

指標（１５）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
市民総合文化祭参加者割合			10.6%	7.4%	12.0%
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	生涯学習課	市民総合文化祭実施事業	展示部門11部会、発表部門14部会による総合作品展及び演技発表会を開催。 参加者数：出演者・出品者1,408人、来場者3,941人 合計5,349人 人口（R5年度末日時点）72,600人		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	61.7%	C	休部を除く全ての部会が発表や出展を行うことができたが、文化祭の開催を担う渋川市文化協会の会員の減少もあり、出演者・出品者の減少が続いている。 また、出演者の減少に伴い、今後、単独での開催が困難と思われる発表会があり、開催方法の検討が必要である。		

【実績値算出根拠】 人口に占める市民総合文化祭参加者数の割合
参加者/渋川市人口（住民基本台帳人口）×100

指標（１６）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
公民館学習参加者数			57,256人	36,525人	57,300人
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	公民館	公民館学習事業	健康増進や教養の向上、仲間作りや地域社会とのつながりづくり等を目的とした「高齢者学級」「家庭教育支援学級」等を開催した。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	63.7%	C	新型コロナウイルス感染症の影響による講座等の中止、または縮小開催等の経験を経て、会場やバス等に対してゆとりをもった定員設定を行うようになったこともあり、1講座あたりの参加人数を大幅に増やせず、指標としている参加者数を達成することが出来なかった。		

【実績値算出根拠】 各種事業の参加者数
「高齢者学級」「家庭教育支援学級」「成人学級」「青少年学級」「世代間交流事業」「その他の事業」「わくわく学び塾」の参加者数の合計

指標（１７）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
緑化苗木配布数（累計）			24,000本	27,095本	36,000本
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	都市政策課	緑化推進事業	例年市内の一般住宅新築や出生に対し交付する記念樹の配布及び緑化苗木の無料配布を行うが、緑化苗木は配布を行うイベントや祭りがコロナの影響で一部中止となった。 平成30年度 苗木配布900本 記念樹配布196本 計1096本 令和元年度 苗木配布625本 記念樹配布198本 計823本 令和2年度 苗木配布（コロナにより中止、未配布） 記念樹配布：春117本、秋65本 計182本 令和3年度 苗木配布（コロナにより中止、未配布） 記念樹配布：春112本、秋86本 計198本 令和4年度 苗木配布170本 記念樹配布182本 計352本 令和5年度 苗木配布290本 記念樹配布154本 計444本		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	75.3%	B	緑化苗木については、コロナ禍以前のようにイベントや祭りが開催され、配布を行うことができた。記念樹の配布については、例年どおり実施できた。		

【実績値算出根拠】 緑化苗木の配布数

4 循環型社会 ～廃棄物を減らし、資源を循環利用するまち～

3Rの推進、ごみ（一般廃棄物）の適正処理とともに、不法投棄などの不適正行為の防止に取り組むことで、ごみを減らし、資源を循環利用するまちづくりを進めます。

指標（18）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
家庭系ごみの１人１日当たりの排出量			639g	635g	600g
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業		取組状況	
	環境森林課	じん芥処理事業		令和６年４月から始まるプラスチックの分別による、燃えるごみの減量化とリサイクル率の増加に向けて、広報、ホームページや出前講座を活用した周知に取り組んだ。	
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	10.3%	C	家庭系ごみの排出量は、減少傾向にあるが、目標値からは、超過している状況である。令和５年度途中から出前講座で周知を図っているので、今後、成果が現れると考えられる。 ごみの減量は、市民一人ひとりの意識と行動が必要となるので、引き続き減量についての啓発を行い、広報紙への記事作成の際には、わかりやすく伝わりやすい内容を心がける。		

【実績値積算根拠】1日あたりの家庭系ごみの排出の総量/人口（減少指標）
（＊リサイクルごみ、資源ごみの排出量は除く）

指標（19）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
ペットボトルの収集量			169t	152t	170t
進 捗 状 況 の 分 析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	じん芥処理事業 (容器包装分別収集事業)	市内の集積所において月 2 回、ペットボトル・ガラス容器(3 種)の収集運搬を行った。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	89.4%	B	ペットボトルを収集している本数は増加していると推察しているが、収集量はほぼ横ばいの状況である。 主な理由として、ペットボトルの軽量化が挙げられるが、今後も継続してペットボトルのリサイクルを推進していく。		

【実績値積算根拠】年間ペットボトルの収集量

指標（２０）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
資源ごみ回収量			2,643t	1,750t	2,700t
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	資源ごみ回収事業	資源再生の推進とごみ減量化を図るため、資源ごみ回収団体へ報奨金を交付した。令和５年度においては、資源ごみ回収量は1,749,894kg（報奨金14,218,672円）、そのうち優良回収報奨金としての回収量は32,409kg（報奨金64,818円）であった。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	64.8%	C	令和４年度から、金属類に対する回収報奨金額を８円/kgから10円/kgへ増額したほか、資源ごみ集積所の整備に対する補助金を導入したが、前年度と比較して回収量が減少する結果となった。 同じく、令和４年度から開始した雑がみとトイレトペーパーの交換回収を継続して実施することにより、循環型社会に対する意識啓発を図り、資源ごみ回収量の減少低下につなげていく。		

【実績値積算根拠】年間の資源ごみの回収量

指標（２１）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
小型家電回収量			26,810kg	3,390kg	35,000kg
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	じん芥処理事業 (家電リサイクル事業)	小型家電の拠点回収を行い、金属類のリサイクルを図った。 なお、市況の変動により逆有償取引が見込まれること及びパソコン等情報機器の安全なリサイクルを推進するため、令和３年３月から拠点回収の見直しを行ったほか、認定事業者による宅配便回収を導入している。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	9.7%	C	逆有償取引となる小型家電の拠点回収による回収量は、令和４年度と比べ、約900kg減少した。一方、市の費用負担のかからない認定事業者による宅配便回収については、広報等で周知した結果、令和４年度に比べ、約700kg増加した。 今後も宅配便回収の周知を行い、回収量の増加に繋げたい。		

【実績値積算根拠】年間の小型家電の回収量

指標（２２）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
特定空家等解決件数率			36%	67.6%	40%
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	市民協働推進課	空家等対策推進事業	空家等に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的として令和４年度に「第２期渋川市空家等対策計画」を策定し、渋川市空家等対策協議会や渋川市空家等対策庁内検討委員会の開催、空き家バンク、空き家活用マッチング、空き家相談等を実施		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	168.9%	A	令和５年末の特定空家の件数は37件、助言及び指導で解決済みが20件、助言及び指導では解決されず勧告となったものが５件あり、５件中解決となったものが５件である。よって、37件中解決したものは25件であった。特定空家に認定を行っても解決しない事案が多くあるため今後とも解決につながるよう指導を行っていく。		

【実績値積算根拠】 特定空家、特定空家になると思われる空家に対する解決件数の割合

指標（２３）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
空家活用件数			3件	37件	21件
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	建築住宅課	空家活用支援事業	・空家の利活用を推進するため、他課と連携し外部団体に向けて周知を行った。 ・空家対策の所管課が開催する空家相談会や空家バンク登録者へ補助金の案内を配布した。 ・SNS等を活用し幅広く周知した。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	176.2%	A	全国的に空家の利活用が増加傾向にあり、不動産業者や建築業者の周知も拡大し相談件数が増加したが、十分な予算確保が課題である。		

【実績値積算根拠】 空家活用支援事業補助金申請件数の累計（積算指標）

令和元年度：7件
令和2年度：5件
令和3年度：11件
令和4年度：8件
令和5年度：6件

5 地球環境 ～持続可能な低炭素化を進めるまち～

省エネルギー、エネルギーの転換、低炭素型の都市への転換、地球温暖化・気候変動の影響への適応、地球温暖化対策の計画的推進や市役所における地球温暖化対策に取り組むことで、地球温暖化防止のため持続可能な低炭素化を進めるまちづくりを進めます。

指標（24）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
電気自動車用急速充電器利用回数			2,495回	1,906回	3,100回
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	電気自動車用急速充電器維持管理事業	電気自動車用急速充電器の利用回数は計画開始会計年度終了時点で目標値を達成した。以降継続して利用可能なように回線改修工事等維持管理を行った。 内訳：道の駅こもち 1,240件 道の駅おのこ 666件		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	61.5%	C	電気自動車の普及は進んでおり、急速充電器の利用回数は計画開始時点で大幅に上昇したが、コロナ禍以降外出機会の減少等により利用が減少した。令和5年度は行動制限などが無くなったが、利用回数は引き続き減少している。		

【実績値積算根拠】市内2か所（道の駅こもち、道の駅おのこ）に設置した電気自動車用急速充電器の利用回数

指標（25）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
防災資機材整備補助団体数			8団体	18団体	16団体
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	危機管理室	自主防災組織育成事業	各自治会への資機材整備補助事業18件の援助。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	112.5%	A	事業は好評であるため、より多くの自治会に利用してもらえるよう、自治会説明会などで事業の周知を図る。		

【実績値積算根拠】防災資機材の整備補助をする団体数

指標（２６）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
自主防災組織の防災訓練、 防災講話等への職員派遣済団体数			68団体	43団体	108団体
進 捗 状 況 の 分 析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	危機管理室	自主防災組織育成事業	自治会及び官公庁の防災訓練及び各団体への出前講座の実施。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	39.8%	C	年度の途中で新型コロナウイルス感染症が５類に移行されたが、まだ、人が多数集まっていたの行事の開催がなかなか出来ていない。		

【実績値積算根拠】 自主防災組織の防災訓練、防災講話等への職員派遣済団体数

指標（２７）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
クールシェアスポット数			14か所	8か所	30か所
進 捗 状 況 の 分 析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	ぐんまクールシェア	群馬県が取り組む「ぐんまクールシェア」に公共施設および商業施設を登録する事業。 クールシェアスポットは８箇所であった。 （内訳：公共施設４（図書館、中央公民館、豊秋公民館、北橋公民館）、商業施設等４）		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	26.6%	C	令和５年度から募集を再開したが、目標に対する進捗は遅れている。クールシェアの認知度をより一層高めていくことが必要である。		

【実績値積算根拠】 渋川市内のぐんまクールシェア登録施設数

指標（２８）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
温室効果ガス排出量削減数値（市役所）			17,237,034 kg-CO2	9,507,570 kg-CO2	16,549,427 kg-CO2
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	環境学習等推進事業 （地球温暖化対策 実行計画推進事業）	市の事務・事業から発生する温室効果ガスの取りまとめ及び温暖化対策実行計画の進行管理を行った。目標値は平成28年の排出量から約５％削減することであり、その目標に対してどれだけ削減しているか毎年度実績を報告している。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	1124.1%	A	施設の廃止や民営化、コロナウイルス感染症の影響による施設の閉鎖や時間短縮、オンライン会議等により活動量が減少したことに加え、令和４年９月から市内65施設について佐久発電所由来の非FIT非化石証書付電力を導入したことにより調整後排出係数から算定される排出量は減少した。		

【実績値積算根拠】温室効果ガス排出量の削減数値（減少指標）

指標（２９）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
住宅用スマートエネルギー機器設置件数			17件	403件	200件
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	地球温暖化対策推進事業 （住宅用スマートエネルギー機器設置助成事業）	再生可能エネルギー利用の普及啓発のため、補助金を交付した。令和５年度においては87件補助金を交付した。 ・定置用リチウムイオン蓄電池48件 ・太陽光発電システム19件（全て蓄電池と同時申請） ・HEMS機器 7 件（全て蓄電池と同時申請） ・V2H 1 件 ・EV又はPHV33件 ・電気自動車用普通充電設備18件（13件EVと同時申請）		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	202%	A	目標値として５年間で200件（年間40件程度ずつ）の実施を目指しており、それを上回る件数（平均60件）で実行でき目標を達成した。 今後も事業を継続する予定であり、ホームページ等で引き続き住民への周知をする。		

【実績値積算根拠】住宅用リチウムイオン蓄電池及びHEMS補助金申請件数の累計（積算指標）

令和元年：45件、令和２年：93件、令和３年：80件、令和４年：98件、令和５年：87件

指標（３０）

指 標		現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
乗合バス利用者数		207,569人	163,278人	213,000人
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業		
	交通政策課	乗合バス運行費補助事業 バス交通活性化推進事業		
			取組状況	
			乗合バスの委託事業者（３事業者、全19路線）に対し、前年度の運行実績に基づいた欠損額分の補助を行い、市民の交通手段を確保した。 令和２年度から４年度にかけ、北橘地区と小野上・子持地区でデマンドバスの導入を行い、交通不便地域の解消に努めた。令和５年度は両地区の乗降場所の見直しを行い、当該地区の自治会長及び民生委員等への調査を行い、新設について警察協議を進めている。 また、バス車両の更新費用に加え、コロナ禍には、ICカードの整備費、車両の抗菌・抗ウイルス加工や空気清浄機の導入費用への補助を行い、路線バスを安全・安心に利用できるよう、環境整備に努めた。令和５年度は神田原・祖母島線及び伊香保～榛名湖線の車両を更新したほか、バスマップ(10,000部)を作成した。	
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析	
	76.7%	B	バスを含めた公共交通の利用者数は、少子化による学生の減少、交通手段におけるマイカー利用の増加等により、近年減少傾向にあった。この状況にコロナ禍が追い打ちをかけたため、交通・物流分野には大きな逆風が続いており、コロナ禍前（令和元年度実績）と比較し、80%程度の実績値となっている。 ただ、新型コロナウイルス感染症が５類に以降し、徐々に社会経済活動が再開され、利用者は少しずつ回復している。今後も継続して乗合バスの利用促進を図る。	

【実績値積算根拠】市町村乗合バス輸送実績報告書による数値

指標（３１）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
J R 乗車人員（渋川駅、八木原駅）			1, 649, 435人	1, 384, 578人	1, 698, 900人
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	交通政策課	JR在来線利用促進事業	「渋川・吾妻地域在来線活性化協議会」を通じたプロモーション活動として、令和5年度は利用促進イベント「吾妻線デジタル周遊スタンプ&謎解きラリー」を開催し、乗車人員の向上に寄与した。 また、SNSによる情報発信を開始した他、J R 上野駅で開催される「上州ぐんま産直市」へ参加し、吾妻線沿線自治体のパンフレットの配布や上記イベントのPRを行った。 J R 渋川駅とJ R 八木原駅の整備事業が着実に進んでおり、ハード面での環境整備にも取り組んでいる。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	81.5%	B	新型コロナウイルスの感染症法5類移行後も、2024年問題等、交通・物流分野には大きな逆風が続いている。 令和4年度からは乗車人員も回復に転じたが、コロナ禍前（令和元年度実績）までの乗車人員回復には、もうしばらく時間がかかることが予想される。今後も継続して、鉄道利用促進を図っていく。		

【実績値積算根拠】 東日本旅客鉄道(株)によるデータ（渋川駅及び八木原駅年間乗車人数合計）

6 学習・参加～地域協働による環境づくりをするまち～

環境学習や環境情報共有、参加と協働とともに、地球環境資源の保全と活用に取り組むことで、分野間をつなぐ、地域協働による環境づくりを進めます。

指標（３２）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
環境学習参加者数			17人	28人	20人
進 捗 状 況 の 分 析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	環境学習等推進事業 (親と子の環境学習会)	赤城自然園にて、園内散策及びどんぐり植樹体験を実施した。10組28人の親子が参加し、自然に親しむ機会となった。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	140.0%	A	親子で参加でき体験活動を伴う環境学習であるため、参加者はすぐに定員となった。		

【実績値積算根拠】親と子の環境学習会の参加者数

指標（３３）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
エコ・リーダーズセミナー参加者数			41人	20人	50人
進 捗 状 況 の 分 析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	環境学習等推進事業 (エコ・リーダーズセミナー)	令和6年4月からプラスチックゴミの分別開始を前に、ごみの問題についてというテーマで実施し、20人が参加した。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	40.0%	C	セミナーの開催については、1回の実施となったため、参加者数が減少してしまった。		

【実績値積算根拠】エコ・リーダーズセミナー参加者数

指標（３４）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
環境まつり来場者数			4,500人	3,500人	4,600人
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	環境森林課	環境まつり実施事業	令和２～４年度にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため規模を縮小していたが、令和５年度は開催内容を検討し、令和元年度以前の規模に戻して実施した。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	76.1%	B	例年、９月上旬に環境まつりを実施しているが、近年の猛暑により、熱中症などの健康被害の危険性が増している。来場者や従事者の健康管理の観点から、開催時期、開催時間や開催内容の見直しを図り、来場者の増加にもつなげていく。		

【実績値積算根拠】環境まつり来場者数

指標（３５）

指 標			現状値 H29年度	実績値 R5年度	目標値 R5年度
環境NPO法人登録団体数			14団体	13団体	17団体
進捗状況の分析	担当課	指標に関わる事業	取組状況		
	市民協働推進課	NPO・ボランティア支援事業	・しぶかわNPO・ボランティア支援センターにおいて、NPO法人及びボランティア団体からの事業相談受付を行った（相談等件数の総数20件）。 ・NPO・ボランティア支援センター会議を２回開催し、NPO法人や任意団体と、市との協働について議論した。 ・NPO・ボランティア支援センターだよりを３回発行し、環境NPO法人を含む各種の団体紹介を行った。 ・環境NPO法人に対し、助成金情報などを提供した。		
	進捗率	目標達成の進捗度	分 析		
	76.5%	B	NPO・ボランティア支援センターにおける相談受付や会議の開催、情報誌発行などの取り組みにより、おおむね目標どおりの団体数が存在、活動している。		

【実績値積算根拠】しぶかわNPO・ボランティア支援センター利用登録のうち環境NPO法人数

Ⅲ 総括

点検結果及び考察

＜結果と考察＞

指標が設定されている37項目のうち、25項目が目標達成に向け、予定どおりに進捗している（「A 予定どおり進んでいる」及び「B 概ね進んでいる」）一方、12項目で進捗が遅れる（「C 遅れている」）結果となりました。

令和5年度は、年度の途中で新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行され行動制限がなくなりました。そのことで実績値がコロナ禍前の水準に戻りつつある指標も見られる一方、コロナ禍で制限された人の流れが戻りきらず影響を受けた指標もあります。事業内容が社会情勢や生活環境の変化に適応しているか確認し、対応する必要があります。

また、「遊休農地面積」、「市民総合文化祭参加者数割合」のように人口減少・少子高齢化に伴う各活動の担い手不足が影響し、目標値と実績値の乖離が進行している指標も見られます。これらの指標については、乖離が今後も続くと考えられますので、これまでの取組だけではなく、行政、民間、市民がより協働・連携して新たな施策に取り組む必要があると考えます。